

J R列車で行こう、湯けむり登別へ — 海鮮漁港の女達 —

虎杖浜漁業協同組合婦人部
部長 本間 ユキ子

1. 地域及び漁業の概況

虎杖浜は、苫小牧市と室蘭市のほぼ中間にあり、白老町の西側に位置し、登別市に隣接している漁村で人口約 2,200人です。

当地は、支笏洞爺国立公園区域に接し、観光地の白老ポロトコタン—登別温泉—室蘭白鳥大橋—洞爺湖温泉—支笏湖ラインの観光振興がクローズアップされております。

又、白老町には、虎杖浜と白老の二漁協があり、登別市と白老町との行政境に位置する登別漁港を基地に虎杖浜・登別漁協が販売事業を統合し、20噸未満の漁船により、スケソ刺網・エビかご・カニかご・ホッキ術曳・サケ定置漁業等を営んでおります。

私達の漁協は、組合員 117名で販売取扱 1,067百万円(10艘)の小規模な組合です。

特に虎杖浜産のタラコ製品はブランド品として知られているようです。

観光と漁業を如何に産業振興に結びつけるかが大きなテーマになっています。

2. グループの組織及び運営

婦人部は、昭和33年発足以来 40周年を迎え、現在、部員数は 80名です。

皆さんも同様かと思いますが、本業の漁業の合間を縫っての活動です。

部の運営は、漁協からの助成金(20万円)、部員会費(年 1,800円)のほか漁港祭りの「かあちゃんレストラン」等のイベント益金及び共済推進の報奨金等でまかなっております。

主な事業は、漁協の貯蓄推進、共済推進、購買事業の共同購入斡旋、漁港内及び公衆トイレ清掃、料理講習会や研修会の開催、環境保護から合成洗剤の追放運動。

又、道漁婦連が提唱している植樹活動は、中学校通学路や河川敷地等に桜の苗木を10年間に亘り植樹したほか諸イベントへの参加、産直販売の実施、マリフレンドパーティー(鯉絵)の開催等の事業活動をしております。

尚、会報誌「さざなみ」を手作りで年6回発行し、活動内容や大会・研修会・地域の話題等を記事に部員や関係者に配布しており、何でも自分達で積極的に取組む姿勢が長所かと思っております。

3. 研究・実践活動課題選定の動機

「獲る漁業から育てる漁業へ、そして今は売る漁業を」… ですから好むと好まざるにかかわらず消費者を意識しなければならなくなったようです。

市場で売れない雑魚、小魚、半端物も商品価値を付けて直販売りの工夫をしなければならぬ時代になりました。そのためには付加価値をどう付ければ良いのか、役員

会で色々相談した結果、以前に町長が日曜日に朝市をやって欲しいとの話が幾度となく言われたこともあって手始めに活エビの直売をと言うことになり、その日水揚げされた活エビ(ホッコクアエビ・トヤマエビ)を地元消費者に味わってもらおうと「夕市」を開催したところ用意した200kgのエビが30分足らずで完売し、うれしい悲鳴を上げた一幕でした。

今は、魚の裁き方を知らない人が多く、店先に並ぶ魚のパック詰め、包丁もまな板もいない、出てくるゴミはパックばかりの生活と言われております。

そんな人達に「親と子の料理教室」と称し虎杖小・中学校の親子を対象に魚の裁き方、ホッキ貝のむき方等を合わせて講習会を実施又、白老町消費者協会の方々との懇談会等も開き浜の実態と私達の事業へのご理解とご協力を約束されました。

皆さんに喜んで頂くためにはどうすれば良いのか、販売方法やPRの仕方は、衛生管理等々悩みばかり増え、そんな折に白老町の担当課職員や町長さんに陳情してきて4年がかかりで「道外研修」の道が開け、町や漁協の助成を受け、今年3月に虎杖浜・白老両漁協婦人部員10名で神奈川県三浦市を訪問しました。

私達研修団のねらいは、水産業と観光業との組み合わせを市の経済の柱の一つにしていることに対する三崎漁協婦人部のかかわり合い方・役割・位置付けを限られた時間の中で知ることでした。

具体的には、朝市や観光客向けの対面販売の仕組、接客のノウハウ、これらに対する行政(市)の支援等です。

一言で言えば「さすが凄いい、売る漁業の先進地だけある、来た甲斐が合った」の言葉に置き換えられるでしょう。

研修で得た「売る漁業」の貴重な体験を踏まえ、まさしく表題の話を見せて頂きます。

4. 研究・実践活動状況及び効果

＝ JR列車で行こう、湯けむり登別へ ＝

この企画の大部分は、新任の登別駅長さんのアイデアから生まれたのです。

平成10年に赴任した時「駅のすぐ裏に漁港がある」と気づき何とか「温泉と鮮魚とJR列車」の組み合わせで旅客増を望めないかと考え、駅裏の漁港でお客さんに地元の新鮮な鮮魚を食べさせたいとのことで市場に相談に行かれたようです。

市場では「水揚げされた魚は全て競り等により登録仲買人に販売され、仲買人以外には販売でません」と全然取り合ってくれなかったそうです。その後何度か足を運び、漁協の販売担当と協議するように指示を受けたようです。漁協では、早速、私達婦人部に相談を持ちかけ、最近の冷凍エビ類は、輸入物が多く消費者もその味に慣れているこの機会に「虎杖浜産エビ」の宣伝をやろうと企画にのることにしました。

湯けむり列車は、始発駅から登別駅までは「お座敷列車」で駅から徒歩5分位の登別漁港内で旬の魚貝類の海鮮パーベキューにタラ鍋、ホッキ御飯等の昼食が主なメニューです。

企画によっては、ホッキ貝のお土産付等もあります又、準備等はJR職員や町職員、漁協職員の協力を得て、暖かいもてなしとおいしさに好評を呼び、去年は600名ほどの受け入れを致しました。

5. 波及効果

今年の湯けむりツアーは、既に 1,000名に達しました。当然婦人部員も忙しくなりましたが、登別漁港祭りの「かあちゃんレストラン」で鍛えた腕で料理を振る舞ったり、歓待したりしていますが、ただでサービスしているだけではありません、せっかく沢山のお客さんが湯けむり列車で来て頂いているのですから宣伝にエビ、タコ、タラコ、毛がに、干し魚やコンブ等の海産物直売コーナーを設置しました。

新企画として、7/15 ~ 8/13 毛がに漁期に合わせて「毛がにゆでたてツアー」を実施致しました。まさしく、これが毛がにの味と驚かれたようです。

遠くは、紋別市や留萌市の方々に登別温泉に一泊してバスで登別市内のマリンパーク等のテーマパークと室蘭白鳥大橋、室蘭地球岬を周って漁港で昼食のコース等幾つかの企画があります。

この様子は、新聞でも取り上げられ、近隣消費者の方々から朝市を開いて欲しいとの要望もあります。

又、事業収益は、公表できるほどではありませんが、私達の産直販売のモットーは、「浜から高く買って消費者には、安く売る」と言うことです。

尚、今年から「JR湯けむり列車」の手伝いに参加した部員には、時給 100円の手当を個人毎に漁協の貯金通帳に入金して渡すことに致しました。

「売る漁業」なんて、かっこうのいいことを言いましたがまだまだ手さぐりの状態です。でも「黙っていても何もはじまらない、少しぐらい忙しい思いをするぐらいでなければ…」と言う駅長さんの熱い思いを私達も今、持ち始めています。

6. 今後の計画と問題点

地場産品をPRできる『湯けむりツアー』は、関係者と協力して継続実施する考えであります。しかしながら 0-157等の衛生面を重視しなければなりません。

又、雨天の施設対応等の課題もあります。

従って、消費者の方々に安全でより良く安いものを消費して頂くために魚や野菜、肉類、タマゴ等白老町の地場産品を異業種の方々と連携して定期的に関催できる施設の建設を町に要請しているところです。

余談になりますが私の息子が青年部活動をしています数年前マリンバンク推進委員全道大会で「地元の魚をブランド化しなければならない、虎杖浜だから虎マークをレッテルにして阪神タイガースファンの多い関西方面に売ることも工夫しなければならない」なんて、とんでもない話を発表したようですが、でも、このように産直販売を実践してみると息子の言ったことが最近分かる気がしてきます。商品の差別化とでも言うんでしょうか、虎印のブランド化と産直販売の結び付きをこれからの課題にしなければと今、漠然と思っているところです。

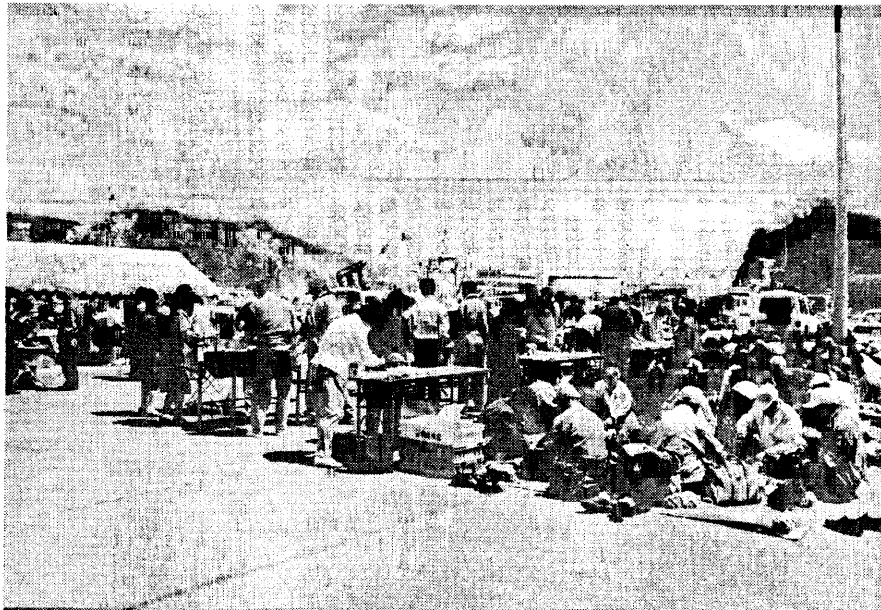
目標があると言うことは良いことですね、海鮮漁港においでくださった湯けむり列車の沢山のお客さんに「おいしい」と言われると疲れが吹っ飛びます。そしてこれからどんどん虎ブランドの魚が全国、いや、世界に鳴り響き、飛ぶように売れる様な、そんな日が実感できるようにこれからも部員一同力を合わせて頑張ります。



「かあちゃんレストラン」



J R 登別駅と共催 お座敷列車地場産品の販売



「J R お座敷列車」バーベキューで舌づつみ

新鮮「海の幸」 丸ごとガブリ

JR企画で虎杖浜漁協婦人部など

美唄「光生園」園生に提供



美唄市の約的園生が、光生園の園生に提供した新鮮な海の幸。

美唄市の約的園生が、光生園の園生が十一日、JRツアープランで特別漁港を訪れ、白老の虎杖浜漁協婦人部（全副会長部）と、特別駅舎を司歌、が爽快に海の幸を堪能した。

特別漁港でパーベキュー

JRツアープランで、同園生が八十八人、海を眺め都と開港が昨から受け入るが、パーベキューを楽しむ。今年（五十九年）は約六百名、マンパ十五人が海でテントを張り、タコイカ、ホッケ、エビなどの新鮮な海の幸を堪能した。また、今回は同園の社会見学旅行を砂川駅が、特別小樽のコースで日曜が組まれた。特別では温泉と開港でのパーベキューが行われた。この日、開港を訪れた園生たちは、

新鮮な海の幸たんのう

JR登別駅と虎杖浜漁協

旅行企画 留萌の観光客に好評
今年第一弾 留萌の観光客に好評



特別漁港で新鮮な海の幸を味わう旅行者。

JR登別駅と白老・虎杖浜漁協がタイアップして、旅行客に新鮮な海の幸を振る舞う旅行イベントが十一日行われ、特別漁港を訪れた道内の観光客が堪能した。

の海の幸を堪能、新鮮な虎杖浜産を広くPRした。JR登別駅（総合駅舎）と虎杖浜漁協婦人部（全副会長部）が昨年が実施している。JRが企画したリゾート列車で、特別、留萌方面の旅行を兼ねて開港で新鮮な海の幸を堪能できる仕組み。昨年は五月から九月まで五百人を受け入れ、好評を博した。今回訪れたのは留萌市からの八十八人で、今年第一弾の旅行企画。一行は前日到着し、特別温泉で一泊。この日は白馬大滝を見学した後、留萌に到着した。同園生部が、この日、開港で水揚げした白エビ、ホタテ、マス、ハマなどのパーベキューを提供した。観光客らはさわやかな潮風に吹かれながら新鮮な魚介類に舌鼓を打ち、満足の様子。

